

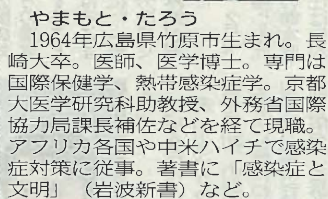
もないので、皆果敢なく死んで行きました」 野上素 訳
 岩波文庫
 半世紀にわたるベスト流行の後、ヨーロッパはある意味で静謐で平和な時間を迎えた。それが内面的な思索を深めさせたという歴史家もある。そうした中で、ヨーロッパはイタリアを中心にルネサンスを迎え、文化的復興を遂げる。
 ペスト以前と以降を比較す

異なつた社会へと変貌

14世紀にヨーロッパで流行したペストは、最終的に欧州全土を覆い、ヨーロッパ人口の4分の1から3分の1を奪う被害をもたらした。その様子は、イタリヤの作家ボッカッチオの『デカメロン（十日物語）』に詳しい。作品には、ペストにあえぐ当時の社会状況が色濃く反映されている。

一日千人以上も罹病しました。看病してくれる人もななく、何ら手当てを加えることもないので、皆果敢なく死んで行きました（『野上素 訳』）

山本 太郎さん



れば、ヨーロッパ社会は全く異なつた社会へと変貌し、神力な主権国家を形成した。神の怒りと考へられた疫病に對して、何ら有効な手段を持ち得なかつた教会の權威は半堅い感染者を隔離できる力を持つ國家に權力の主体が移つていった。中世は終焉を迎え、ヨーロッパは近代を迎えた。

これがバースト後の欧州世界

に出現した社会は、それまで現地の人々が暮らしてきた社会とは異なる、スペイン人を中心とする別世界となった。

カナタ出身の歴史学者ウィリアム・マクニール氏は著書「疾病と世界史」で、新大陸の住民も疫病病、「神の怒り」と解釈しており、「神の怒り」が免疫のない新大陸住民に鉄鎧を振り下ろしたにもかかわらず、スペイン人の感

既に始まつてゐる胎動
パンデミック後に時として
出現する新たな社会は、独立
した事象として現れるわけ
ではなく、歴史の流れの中で起
こる変化を加速する形で表出
する。」（佐々木昭夫、中公文
庫）

であつた。そして姿貌したヨーロッパは、アフリカや新大陸へと踏み出して行く。それが新たな悲劇の幕開けともなる。

コロンプスによる再発見以降の16世紀南北アメリカは、感染症によって大きく影響を受けた。天然痘や麻疹（はしか）といった、新大陸にはな

染は少なく「神の恩寵」を受けているように見えたと言いつつ、以下のように述べた。

「聖なる理法も自然の秩序も、はつきりと原住民の伝統と信仰を非としている以上、抵抗ということにどんな根拠が残っているかと言うのなら、ペーインの征服事業が異常なほどの容易さだったこと、まづ

感染症が社会の変化を加速

される。14世紀のペスト流行の時も、16世紀南北アメリカでの感染症流行の時もそうだった。

ペイン風邪流行もそうだったと思う。流行後の世界は、新興国アメリカの世界史の舞台における台頭を見た。アメリカは、その後、世界のパワー・エコー・システム、経済の中心となっていく。

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行も、社会に何らかの影響を与えるだろう。そうした影響の胎動は既に始

もしれない。14世紀のベスト
が社会の主体を教会から国家
へと変えたように、今般の流
行がIT（情報技術）などを
主体とする社会の出現をもた
らすかもしれない。

その兆候はある。ITが監
視国家ではなく、民主主義的
合意によって連帯を深めるも
のとして用いられる社会であ

その上で、林
限は「絶対的に
み正当化され
主義社会にな
々しく、一時
められるべき
その痛みと例
た。(林フー
サイト「M
語サービス」)

テレビ演説するドイツのメルケル首相
3月18日、ベルリン（ロイター共同）



うした変化は、流行が終息した後でさえ長く続く。

14世紀ヨーロッパのペスト流行の時のように、アンシャンレージュ（旧秩序）に变革を迫るものになるか。

ウィルス感染症の対策とその理解に向け、演説を行った。彼らは旅行や移動の自由に対する制限とその必要性に触れ、次のように述べた。

「開かれた民主主義に必要なのは、政治的決断を透明にし、説明すること、私たちの行動の根拠をできる限り示してそれを伝達すること、そしてそれを理解できるようにすることだ」

ありたい。
 感染症は社会
 の様相を規定
 染症は時に社会
 となる。そうし
 染症の世界的
 会的なものとな
 歴史が示す
 しれない。
 ただし、希望
 は私たちの心で
 する。

歴史が示す一つの教訓

3月18日、ドイツのメルケ首相は、今回の新型コロナ